

今江まさひこ

ご意見をお寄せください

事務所 〒523-0837
近江八幡市大杉町30番地1
TEL (0748)36-5788
FAX (0748)36-5794
http://www.m-imaie.com



あなたもわたしもシガリズム

…みんなできつろろろろ「健康しが」…

あなたもわたしもシガリズム…みんなできつろろろろ「健康しが」…をテーマにした令和4年度当初予算が2月定例会議において成立しました。

シガリズムとはしがの「リズム」と「イズム」を意味し、ゆっくりていねいな暮らし、自然と人とのちよろいリズム、利他のところ、三方よし、おかげさま、お互いさま、誠信の交わりという視点を大切にします。

この予算によりコロナ禍によって傷ついた滋賀県のあらゆる「健康」を回復し、令和4年度がポストコロナ時代の幕開けの年となるように、そして異常気象や生態系の変化をもたらしている地球温暖化に対応するためにCO₂ネットゼロ社会の実現に向けた取り組みが加速化する年となるように期待しています。

加えて令和4年度は県政150周年という節目の年であり、県民の皆さんが滋賀の歴史に学び、未来を考える年となるように様々なイベントが計画されています。そして、滋賀の歴史をしっかり後世に残すため、新たな県史編さんにも着手されます。

令和4年度予算総額は一般会計でおよそ6,440億円であり、このうち新型コロナウイルス感染症対策分として約791億円が計上されています。



今江まさひこのプロフィール

1954年6月29日生まれ（満67歳）
市立金田小学校、市立南中学校を経て県立彦根東高等学校、同志社大学法学部卒業後、近江八幡市職員となり、議会事務局次長、秘書広報課長を歴任。
2007年4月滋賀県議会議員に初当選。（現在4期目）この間、総務・政策常任委員長、防災・エネルギー対策特別委員長、関西広域連合議会議員などを歴任。

委員会報告



「環境・農水常任委員会報告」

当委員会では①琵琶湖を取り巻く環境および生物多様性の保全について②環境負荷の少ない循環共生社会の実現について③農林水産業を支える多様な人づくりについて④新しい販路開拓などによる力強い農林水産業の確立についての4点を重点審議事項として1年間取り組んできました。

委員会のメンバーと県民の皆さんが直接対話をする県民参画委員会としては志賀町漁業協同組合を訪問し、琵琶湖漁業が抱える担い手の確保と定着について意見交換をしました。滋賀県では儲かる漁業を目指して様々な取り組みをしていますが、担い手の皆さんは大変なご苦労をされながら琵琶湖漁業を守っておられます。販路拡大や漁協の強化などにより担い手がしっかり定着できるよう対策を求めています。

令和3年度から「持続的で生産性の高い滋賀の農業推進条例」や「滋賀県農業・水産業基本計画」がスタートしていますが、ブランド化や販路拡大により滋賀において儲かる農林水産業が確立されるように努めて参ります。

「琵琶湖・CO₂ネットゼロ対策特別委員会報告」



当委員会では①琵琶湖保全再生施策に関する計画およびマザーレイクゴールズ (MLGs) の推進について②琵琶湖をとりまく森林づくりおよび治水対策について③CO₂ネットゼロ社会づくりについての3点を重点調査項目として一年間取り組んできました。

特に、地球温暖化対策が強く求められる中で「滋賀県CO₂ネットゼロ社会づくり推進計画」については多くの意見が出されました。この計画の2030年の中期目標としては2013年度比で温室効果ガス排出量を50パーセント削減するとなっています。

私は30年後の社会を動かしていく若い世代をはじめとする幅広い県民の皆さんの意見や思いを受け止め、計画に反映させる仕組みを構築するように求めました。同時に5年ごとの計画の見直しではなく、毎年進捗状況を検証しながらスピード感を持って対応することを求めました。

さて、令和3年度を振り返ると、これまでチームしが県議団の代表質問や予算特別委員会の全体質疑等の中で私も取り上げてきた高等専門学校の新設事業が「令和の時代の滋賀の高等」構想としてその概要が示されました。学校規模は入学生員120名（3学級）で学校全体で600名、設置主体は公立大学法人滋賀県立大学、施設整備費はおよそ100億円で令和9年春の開校を目指します。令和4年の夏頃には設置場所が決定される予定ですが、近江八幡市も誘致に手を上げています。全国でも有数の「ものづくり県」といわれる滋賀県にふさわしいICT（情報通信技術）エリートを育成するための高等専門学校が新設され、すべての人と地球を支える人材の育成が実現するように私も努力して参ります。

また、令和3年の9月定例会において私が本会議などで粘り強く求めてきた公契約条例が「滋賀県が締結する契約に関する条例」という名称で制定されました。

滋賀県の契約は公共工事や業務委託、物品の購入など多岐にわたり、契約金額の規模は1,000億円を超えています。これらの契約において品質の確保や公契約現場の労働条件の向上、地域経済の活性化、グリーン購入推進などの社会的価値の実現をめざした条例に基づく取り組み方針も3月に決定されました。

三日月知事の2期目の検証について

2月定例会の開会日に三日月知事は今年の7月に行われる知事選挙に向けて立候補の意向を示されましたが、それに先立ち我々チームしが県議団では昨年より二期目挑戦にあたって三日月知事が作成された知事政策集の実施状況の検証を行うなど三日月県政二期目の評価をしました。

三日月知事の政策集は人の健康、社会の健康、自然の健康、県政運営の4つのカテゴリーに分けて100項目の具体的な施策があげられていますが、それぞれを5段階で評価した結果、3から5の評価は合計80項目で全体の約8割を占める状況でした。ちなみに5の評価は高等専門人材育成機関の検討と共生社会づくりを目指す条例の制定の2項目でした。

これまで三日月知事は常に現場の声を重視しながら政府や経済産業界、そして19市町の首長とも良好な関係を築いて連携しながらスピード感のある県政運営をされてきました。

今後我が会派が提案してきた政策である子ども医療費助成の拡大、手話言語条例や公共交通条例の制定、オーガニック農業の推進などの実現を期待するとともに、去る1月26日に開催された

知事との政策懇談会においてチームしが県議団の総意として三日月知事が三期目に挑戦されるよう要請しました。



三日月知事 2期目の検証をし、チームしがの政策懇談会で3期目への立候補の要請をしました。



県民の命と暮らしを守るために新型コロナウイルス対策などについて万全を期すようにチームしが県議団から三日月知事に要望しました。